

鳥取環境大学

| | 氏名 | 研究テーマ | 研究の概要 | 研究期間 | 金額 (千円) |
|----|-------|---|--|-------------|------------|
| 1 | 今井 正和 | 鳥取県における環境情報の計測拠点の整備と閲覧システムの構築 | 温度、湿度、気圧、風向、風速、雨量等を計測する観測拠点を鳥取県内に多数設置し、インターネットを用いて計測データを収集蓄積し、計測データを閲覧するシステムを構築する。また、インターネットを用いて収集・蓄積を目指すLive E!プロジェクトに参加し、そのデータ収集・蓄積システムを活用して、計測データの収集を行なう。 | 2年目 /2年間 | 1,500 |
| 2 | 荒田 鉄二 | 農村景観の点景としての水車の復活に関する研究 | 八頭町の「美しい景観の保全と創造」の一助として、水車復活に関する研究を行い、動力用水車の復活を目指す。 | 2年目 /3年間 | 737 |
| 3 | 三野 徹 | 鳥取県における小水力エネルギーの利用拡大とプラットフォームの形成 | デジタルマップを利用して県内の小水力エネルギーの賦存状況を評価し、小水力利用の可能性を検討する。 ため池においてサイフォン取水装置と試作発電機の性能調査を実施する。 | 3年目 /3年間 | 840 |
| 4 | 鷺見 育亮 | エネルギー目立化を実現するハイブリッド発電システムの実用化研究—戸建て用エネルギー自立化の鷺見研版グリーンニューディール— | 各家庭でエネルギー自立化を実現するモデルケースを提供するために、家庭用太陽光発電システムの効率化研究を行う。(夏場の太陽光パネルの冷却システム、冬場のパネル上の融雪装置の開発) | 2年目 /3年間 | 1,400 |
| 5 | 藤沼 康実 | 鳥取県内森林に適合した炭素吸収量の評価手法の開発 | 鳥取県内の森林(特に人工林の大半を占める杉林)に適合した独自の炭素吸収量の評価手法を確立し、それを活用して県内森林全体の広域評価を試みる。 | 3年目 /3年間 | 656 |
| 6 | 佐藤 伸 | スギ(スギバーク)からのバイオエタノール生産に適した生物化学前処理技術の開発 | 鳥取県内から採取した木材腐朽菌の性質分析を行い、エタノール生産の検討を行う。 | 2年目 /3年間 | 1,066 |
| 7 | 岡崎 誠 | フードマイレージを用いた地産食材の消費行動推進に関する研究 | 鳥取県における県外食材と地産食材に要する輸送エネルギーの比較をフードマイレージにより「見える化」することにより地産食材の消費行動を誘導する。 | 1年目 /1年間 | 1,583 |
| 8 | 中橋文夫 | 山陰海岸ジオパークマネジメントプランの策定 | 山陰海岸ジオパークエリア内の資源を明らかにして、その利用・運営・経営のあり方をとりまとめ、マネジメントプランを策定する。 | 1年目 /3年間 | 1,025 |
| 9 | 浅川滋男 | 摩尼寺「奥の院」遺跡の環境考古学的研究 | 摩尼寺「奥の院」の歴史を考古学・環境学的に明らかにする。 | 1年目 /1年間 | 2,250 |
| 10 | 十倉 毅 | 鳥取県の発電用風車騒音に関する研究 | 県内に設置されている風力発電装置の騒音の現状について調査を行い、データ整理、報告書を作成する。 | 1年目 /1年間 | 895 |
| 11 | 小林朋道 | 智頭町芦津におけるニホンモモンガを中心とした小型哺乳類の生態調査およびそれにもとづいた森林計画と地域振興に関する提案 | 人工林とニホンモモンガの生息の両立を可能にする森のデザイン及びニホンモモンガををシンボルとして利用した地域振興の具体的な方策に関する提案を行う。 | 1年目 /3年間 | 978 |
| 12 | 東樋口護 | 「里山集落」における小規模有機農業コミュニティ形成の可能性に関する実践的研究 | 荒廃する里山・休耕地・耕作放棄地を抱える限界集落の環境保全・地域再生を、自然共生型の有機農業など新農業コミュニティ形成を行うことで実現できるかどうかを探る。 | 1年目 /3年間 | 750 |
| | | | | | 13,680 |

鳥取短期大学

| | 氏名 | 研究テーマ | 研究の概要 | 研究期間 | 金額 (千円) |
|---|--------|---------------------------------------|--|-------------|------------|
| 1 | 野津 あきこ | 鳥取県における食育推進のための実践的食生活研究～幼児・高校生を中心として～ | 県内の食育推進のための調査データを実践に活用することを目的に、今までの子どもの食生活研究をベースにして「高校生の食生活調査」、「保育園・幼稚園の食生活調査」を重点的に行い、食育啓発のための教材を作成し研修会等で活用する。 | 2年目 /2年間 | 800 |
| | | | | | 800 |

鳥取大学

| | 氏名 | 研究テーマ | 研究の概要 | 研究期間 | 金額 (千円) |
|----|--------|--|---|-------------|------------|
| 1 | 塩崎 一郎 | 鳥取砂丘の地下構造と地下水大循環に関する研究－砂丘内湧水(オアシス)の起源を探る－ | 鳥取砂丘の地下水の循環システムを地下構造の観点から調査し、湧水(オアシス)の発生メカニズムを解明する。 | 3年目 /3年間 | 1,627 |
| 2 | 伊福 伸介 | カニ殻に含まれるマリナノファイバーを活用したエレクトロニクスデバイスの開発 | カニやエビの廃殻から単離したキチン質超微細繊維「マリナノファイバー」を用いて、エレクトロニクスデバイス用基板等に利用可能な高強度で低熱膨張、高耐熱性、高熱伝導性に優れた透明プラスチックフィルムを開発する。 | 2年目 /3年間 | 1,560 |
| 3 | 伊藤 敏幸 | 革新的溶媒イオン液体による環境調和型バイオ反応の開発 | イオン液体コーティング酵素によるハイブリッド型ハイオ反応を開発するため、「酵素反応に適した新規イオン液体」、酵素タンパクに「耐熱性と非水有機溶媒への安定性を付加するイオン液体」を開発し、開発したイオン液体コーティング酵素による医薬品合成やバイオディーゼル合成反応などの有機合成法を確立する。 | 2年目 /3年間 | 1,560 |
| 4 | 鶴崎 展巨 | 鳥取砂丘の動物のインベントリー作成と生活史・群集の調査 | 鳥取砂丘に生息する昆虫、クモ、多足類の生態調査を行い、種名リストと生息分布図を作成する。 | 3年目 /3年間 | 1,504 |
| 5 | 嶋尾 正行 | 湖山池の新型アオコ、オシラトリアを浄化する生態学的浄化剤の開発 | 湖山池に発生する新型アオコのオシラトリアに対して、オシラトリアを抑制する微生物を用いた浄化剤を開発する。 | 3年目 /3年間 | 1,460 |
| 6 | 赤尾 聡史 | 水生植物ヒシのカスケード型資源化 | 湖山池ほか各地の湖沼で異常繁茂している水生植物ヒシを利用して、①アオコ除藻剤の開発(ポリフェノール)、②リンの回収、③ヒシ残渣のバイオエタノール原料化の3段階資源化を検討する。 | 2年目 /2年間 | 962 |
| 7 | 田川 公太郎 | 騒音と景観を対象にした大型風車群の環境影響に関する研究－現地調査に基づく騒音・景観特性の解明、ならびにバイオマーカーによる人体影響の定量的評価－ | 複数基の大型風車群から発生する騒音特性の解明と、風車群の騒音や景観が人体に及ぼす影響の定量的評価に基づいた風力発電の環境影響評価手法について検討する。 | 2年目 /2年間 | 1,070 |
| 8 | 松葉 隆司 | 色素分解酵素産生細菌による着色排水浄化法の開発 | 工業(繊維加工、食品加工等)および畜産業における着色排水について、低コストで環境負荷や二次汚染などの環境へのリスクを抑えることが可能な、色素分解酵素を高効率に産生する細菌を用いたバイオ脱色法を確立する。 | 2年目 /3年間 | 1,460 |
| 9 | 小玉 芳敬 | グローバルに視た鳥取砂丘の個性を浮き彫りにするための研究 | 山陰海岸ジオパークの一角を占める鳥取砂丘が世界基準で観たとき、どのような個性を持ち合わせているか解明する。 | 1年目 /3年間 | 2,462 |
| 10 | 永野真吾 | 省エネルギー水質浄化を担うアナモックス菌による窒素除去反応の分子基盤の解明 | アンモニアと亜硝酸を分子状窒素に変換するアナモックス菌の窒素除去の仕組みを解明し、エネルギー消費の少ない水質浄化方法を開発する基盤を作る。 | 1年目 /3年間 | 2,190 |
| 11 | 家中 茂 | 人工林の間伐及び林地残材の有効利用を促進するための社会システム構築に関する環境社会学的研究 | 放置状態に陥る傾向にあると言われる人工林を対象に、間伐を促進し、その林地残材を有効利用する社会システムを構築する。 | 1年目 /2年間 | 1,243 |
| | | | | | 17,098 |

米子工業高等専門学校

| | 氏名 | 研究テーマ | 研究の概要 | 研究期間 | 金額 (千円) |
|--------|-------|---|---|-------------|------------|
| 1 | 靱間 由幸 | 焼却灰の有効利用に向けた研究 | 企業から排出された焼却灰を特殊加工することで防草効果のある特殊材料を開発したノウハウを活かし、行政のゴミ処理施設から排出される焼却灰についても高機能を付与した製品の創成をおこなう。 | 2年目 /3年間 | 372 |
| 2 | 宮田 仁志 | 希少金属を使用しない新型モータの電気自動車への応用 | 株式会社EVモータ・システムが独自に開発したレアアースを使用しない新型モータに着目し、その駆動回路を含めたシステムを電気自動車用として開発する。具体的には、コストを抑えた低精度のセンサを用いたシステムで、瞬時トルク制御及び車輪の空転防止制御法を開発する。 | 2年目 /3年間 | 1,482 |
| 3 | 大塚 宏一 | プラスチック廃棄物を用いた水潤滑軸受の研究開発 | PETボトルやポリ袋などのプラスチック廃棄物を利用した軸受材料成形品の製品化を検討する。 | 3年目 /3年間 | 450 |
| 4 | 山口 顕司 | 水溶性加工液のライフサイクルを延ばす維持管理システム開発に関する基礎研究 | 金属加工に使う水溶性加工液の寿命を延ばすための濃度監視センサシステムの開発と液の品質・性状を維持管理するシステムを提案する。 | 3年目 /3年間 | 744 |
| 5 | 南 雅樹 | 校庭芝生化がもたらす教育環境への影響－児童への影響と維持・継続、普及に関する問題点を検証する－ | 校庭芝生化が及ぼす教育環境や地域への影響を、児童・生徒の発育発達および学校教育(体育、学校行事およびPTA活動を含めて)の観点から検討する。また校庭芝生化実施校における維持・継続の問題点と未実施校における阻害要因を検討する。 | 1年目 /3年間 | 1,958 |
| 6 | 青木 薫 | 中海及び周辺河川における水質と難分解性溶存有機物の動態 | 中海および中海周辺河川における水質と、難分解性溶存有機物(水溶性であるが生物分解を受けにくい有機化合物)の動態調査を行い、発生源別寄与率を明らかにすることによって、さらなる湖水浄化策を提案する | 1年目 /3年間 | 1,525 |
| 7 | 河野 清尊 | サークルコードとスマートフォンを用いた景観再現・観光創造システムの開発 | スマートフォンをかざすだけでその方向に見える景色などを画面上に映し出すことができるシステムを開発する。 | 1年目 /3年間 | 1,684 |
| 8 | 田中 博美 | 高トルク・超省エネルギー型電気自動車モータへの応用を目指した高温超伝導線材の開発 | 高温超伝導を応用し、超省エネルギー、高トルク、脱レアアース型のEV用モータを開発する | 1年目 /3年間 | 2,218 |
| 9 | 細田 智久 | CASBEE学校を用いた鳥取県内の学校施設の環境評価と改善提案の研究 | CASBEE学校(学校施設における総合的な環境性能評価手法)を用いて鳥取県内の既存校舎の環境性能を評価すると共に、子どもの快適性も考慮し、効果的な既存校舎のエコスクール化提案を行う。また、CASBEEとっとり版に独自設定された部分をCASBEE学校に取り込む検討も行う。 | 1年目 /3年間 | 989 |
| | | | | | 11,422 |
| 合計 33件 | | | | | 29,320 |